

いじめの解消に向けて大人たちができること ～全ての子供たちの成長を促すために～

群馬県いじめ防止基本方針より

いじめの解消に向けて

- ・いじめを受けた子供や保護者の立場に立って対応する
- ・いじめを行った子供には、行為の善悪をしっかりと理解させるとともに、成長支援の観点から指導を行う。
- ・単に謝罪をもって安易に解消と判断しない など

<対応例>

校内いじめ対策組織に報告、いじめと認知

ケース① 子供が成長する過程で一般的に見られる日常的衝突

男子Aが、男子Bから下校中に冷やかしの言葉を浴びせられたり靴を踏まれたりした。Aの母親の訴えで発覚。Aとその母親は、「自分で解決したい」と言っている。



対応例

- ・学校・家庭・地域で連携を取り合いながら、下校時の様子を見守る。
- ・Aに、嫌なことをされたときには、相手に嫌だと伝えたり誰かに相談したりするよう助言する。
- ・Bに、Aが嫌な思いをしていることに気付かせ、友達への関わり方を助言する。

ケース② 子供同士の衝突がエスカレートした場合

女子Cは、数日間にわたり女子3名から無視されたことで、3日間連続して欠席した。女子3名は、「以前からCに強い態度を取られていたため、距離を置いただけ」と主張している。



対応例

- ・過去の嫌なことをされてきた3名の気持ちを受け止めながらも、学校に来られなくなったCに対して何ができるのか考えさせる。
- ・Cが安定して登校できるようになったところで、関係者に問題解決の方法について助言する。

ケース③ インターネットを介したトラブル

男子Dは、男子Eと口論した腹いせに、Eを誹謗・中傷する言葉をSNS上に書き込んだ。そのことを知ったEは、翌日担任に相談した。担任がDに確認したところ、「ふざけたつもりで書き込んだので悪気はない」と主張している。



対応例

- ・Dに対し、一度SNS上に書き込むと拡散され、多大な被害を与える可能性があることに気付かせる。
- ・SNSの正しい使い方について学校全体で指導する。
- ・家庭に対して、スマホを使用する上でのルールについて、子供たちと話し合うよう依頼する。

いじめの解消、再発防止に向けた対応(成長支援)のポイント

いじめを受けた子供



- ・安心と安全を守ることを最優先する(不登校、仕返し被害の未然防止を図る。)
- ・「あなたが悪いのではない」ことをはっきりと伝え、自己肯定感の回復を図る。

いじめを行った子供



- ・いじめを容認しない態度を貫く。
- ・いじめ行為の背景に目を向け、考え方の間違いに気付かせたり、問題解決の仕方を教えたりするなどして再発を防止する。

いじめをはやし立てる、見て見ぬふりをする子供



- ・いじめを見ていた児童生徒に対しても、自分の問題として捉えさせる。
- ・いじめを止められなくても、誰かに知らせる勇気をもつよう伝える。
- ・「はやし立てる」行為自体も、いじめに含まれることに気付かせる。



関わった子供たちの成長

いじめの解消(再発防止)



学校

家庭・地域

いじめ対応Q&A（周囲の大人の子供への関わりについて）

Q1 息子が学校でいじめに遭いました。先生の指導で、いじめは一旦収まりましたが、息子はなんとなく元気がありません。親としてできることは何でしょうか。

A お子さんの心をケアするとともに、傷ついた自己肯定感を回復させましょう。

子供はいじめられたとき、「自分が悪いから仕方ない」と思うてしまうことがあります。お子さんには、「あなたは悪くない。たとえ自分に落ち度があると感じたとしても、そのことといじめは別である」と伝えましょう。親が過剰に反応したり、軽く考えたりすることなく、お子さんの心をケアし、自己肯定感の回復を図りましょう。お子さんの心が安定してきたところで、今後、二度と同じようないじめ被害にあわないために、「困ったときには遠慮せずに助けを求めろ」等の方法を助言するなどして、再発防止を図りましょう。

Q2 娘がいじめをしたと学校から言われました。娘は、あの子が悪いのだから、このくらいしないとわからないと言っています。このままだと、同じことが起きるのではないかと心配です。加害者の親としてどう対応すればよいでしょうか。

A いじめを容認しない姿勢を貫きつつ、成長を促す働きかけを行いましょ。

いじめを行った子供は自分の行為を正当化することがありますが、どのような理由があったとしても、相手を傷つける行為は許されず、違う方法で解決を図らねばならないと伝えましょう。いじめの再発を防ぐためには、問題の解決の仕方を教えるなど、子供たちの成長を支援する観点が必要ありません。

また、いじめを行った子供には、そのモデルとなる存在がいるという指摘もあります。周囲の大人自身が考えが合わない相手を排除し攻撃するなど、悪いモデルとなっていないかを振り返ることも大切です。大人として、「多様性」を認める心の広さをもつことが必要です。

Q3 息子が学校の先輩から暴力行為や金銭の要求を受けていたことが分かりました。息子の安全を守るため、警察に相談した方がよいでしょうか。

A 安全の確保が最優先です。警察への相談を含め、学校に相談しましょう。

加害行為を即刻やめさせるとともに、往返し行動を防止し、被害者の安心と安全を最優先とした対応が必須です。学校としても、教育委員会への相談、警察等の関係機関との連携も視野に入れた対応を検討する必要があるケースです。学校に対して、お子さんが受けた行為を正確に伝え、今後の対応について、密に連絡を取り合ってください。

Q4 地域の行事に来た子に、「学校でからかわれていてつらい」と相談されました。子供にはよくあることだと思い、「そのぐらいのことは自分で解決しようね」と答えました。このような場合、もっと違う対応の方がよかったのでしょうか。

A その子がどんなことで、どれだけ困っているのかを知ることが大切です。

子供同士のトラブルは、子供たち自身で解決することが理想ですが、被害側が孤立状態にあるなど、子供たちだけでは解決が困難な場合もあります。相談されたときは、勇気をもって打ち明けてくれたことを認め、話に対し真摯に耳を傾けることが大切です。「そのぐらいのことは自分で解決しようね」という言葉は、子供たちにとって「誰かに助けを求めてはいけないんだ」という誤ったメッセージになってしまうことがあります。子供のSOSを丁寧に受け止めるとともに、助けを求めろことの重要性を子供たちに伝えましょう。その後、学校に連絡するようお願いします。